

第10回セミナーを1月21日(土)13:30~15:30に開催しました。参加者の皆さんよりお預かりしたリフレクションをまとめました。

会場：愛知文教大学 ABUラウンジ

テーマ：学びを楽しむ授業づくり・学校づくり

講師：学び合う学び研究所 フェロー 林 文通 先生

ゲスト実践者小牧市立岩崎中学校 山田 祐未先生

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、授業づくりが語り合える学校づくりの必要性（若い優秀な教師が、希望を持ち満足感を味わいながら働ける職場にするために）です。

林先生のプログラムがよく、心地良く思考することができた。授業分析のための切り込みポイントが良く、グループでの話し合いが盛り上がり、深まった。前後にあった、林先生の講義内容も、とても良く、これからの教育現場のあるべき姿を的確に伝えているように感じた。授業者の授業がよく、生徒がよく育っていると感じた。教師の声より、生徒の声が圧倒的に多く、生徒自らが学ぼうとしている。それを教師が、上手くコーディネートしており、参考になるものであった。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、グループの学びです。

グループの学びが、授業の中心をなすと思ってきましたが、それが必ずしも一般的ではないことを大学生の生の声から学びました。機会があれば自分も尋ねてみたいと思います。

提案していただいた短歌の授業はとてもおもしろく、生徒がいろいろに感じる事ができるよい教材であったと思います。林先生は家族で乗っている情景を思い浮かべた、と言われたのには少し驚きましたが、事ほどさように純粋に生徒はどう感じるかを自由に読ませると、子どもらしい自由な発想がもう少し生まれたのかもしれない。議論にあったようにNo.144の音読から大きく展開したことからも、節目、節目に音読で本文にもどすことの大切さを学ぶことができました。

いわゆる足場がけとしては、音読に加えて、「ここが分からない、困っている」というところはないか、という疑問を取り上げる場面が前半にあると、また、違った展開になったかも知れないと思いました。

いずれにしても、一人残らず学びに集中している岩中生の姿は素晴らしかったです。

授業ビデオを切り取ってポイントを示したり、グループで考えさせたりする林先生のセミナー進行の手腕は、さすがです。その巧みさもたいへん勉強になりました。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、教室や学校を開く文化が若い先生方を伸ばすことです。

林先生 祐未先生 ありがとうございました。授業ビデオから学び、グループで聴き合うのはたのしいですね。至福のときです。また、授業や子どもがよく見える先生方のお話を伺えるこのセミナーが最高です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

林先生のお話に納得です。コーディネートと伝える工夫からもいっぱい学びました。祐未先生の授業を始めてみたときも感動し、多くの先生方に学びをお伝えしました。再びビデオをみて、自分がみえていなかった視点をたくさん教えていただきました。新たな世界が少し

みえた気がして、身体が喜んでいます。

ビデオの事実や逐語記録から語ることで、林先生が昨年のセミナーリフレクションで、副島先生のメッセージを取り上げていただいたこと、授業で育つ教師の会で学んだあの日々を思い出しました。

お二人のおかげで、すてきな先生方、懐かしい先生方とともに学ぶことができました。

この学びがさらに広まることを期待します。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、子どもの姿から学ぶことのすばらしさです。

生徒たちが、仲間と聴き合いながら探究していく姿を拝見し、心がほくほくしています。中学校の国語でこういう学びをする子供たちに出会えて、ちょっと興奮しています。

冒頭、林先生が「小牧であたりまえなことが日本全国では当たり前ではない」とおっしゃっていました。最近小牧の他校の様子を拝見することがめっきり減ってしまったのでどうなっているのかわかりませんが、今日の教室や私の周りの教室を拝見する限り、子どもたちに助けられていることを改めて気づかされます。

セミナーでは、前半にグループの役割や機能、後半に授業デザインのことが話題になりましたので、それに沿って私が学ばせてもらったことを中心にリフレクションします。

1. グループについて

まずはグループの様子をここまで追っている動画がなかなかないでしょう。岩崎中は、学校中でグループの学びを大切にしていってくださったのだとうかがえました。それを象徴しているかのように、この授業は50分の中でグループの時間が一番多くとられていました。一時間の中にグループが2、3回あるのではなく、グループで学び、時々全体で共有してまたグループで学ぶ。だから、先生の言葉も非常に少ないし、誘導する必要もない。それができる生徒に育っていることが素敵だと思います。

生徒たちの言葉は「？」が飛び交い、どんどん探究が進んでいました。授業記録の28~40あたりをみるととにかくごちゃごちゃしています。ここがとってもいい！グループでなければ出てこないことだし、わかったことを話すのではなくわからなさを聴き合うことで探究がはじまることを学びました。（とりわけS6さんがなかなか納得せず、いい味を出しています！）

「グループ＝一つに意見をまとめる」のではなく、個の読みを作るためにグループで聴き合いすり合わせる、そうすれば個の考えが埋没することもなくなると思います。

2. 授業デザインについて

一つの短歌を一時間かけて読む・・・これもなかなかないことだと思います。グループ中心でなければ、まずこれができないし、それをあたりまえにやっていたら山田先生の授業作りに感動しました。

セミナーの中で4コマ漫画が必要だったかという話題が出ました。必要か不必要かは、授業者が、「今」の学習者の現段階をどう研究されたか、だと思います。山田先生は、「今」の生徒にはこれが必要だと判断され、そこには、短歌を読み、頭の中に情景や心情を思い描いてほしいという先生の願いがあったのだと思います。授業を拝見する限り、次からはもう必要ないと、生徒の姿が語ってくれているように思いました。最初から音読を繰り返し、頭の中

に思い描いていけば、この生徒たちはきっと豊かに読み描いていくのではないのでしょうか。

短歌に限らず文学の授業では、言葉にふれ、そこから思い描いてほしいと思っています。授業半ば過ぎまで生徒は、「観覧車」「我」「君」という具象物には着目していましたが、「まわれよまわれ」「一日（ひとひ）」「一生（ひとよ）」の言葉自体にも、言葉がもつ響きにも触れていません。教材研究をしていれば、「まわれよまわれ」「一日（ひとひ）」「一生（ひとよ）」こそがこの歌を読むのには欠かせないと気づきます。それを出してきたのが記録110のS10さんでした。「最後の方が重い」・これは「一日（ひとひ）」「一生（ひとよ）」に着目した発言です。生徒が気づいていることに感動しました。

それにしても、音読がこんなにも読みを豊かにするということを教えてくれたのも、この教室の生徒たちでした。記録143の音読指示前の生徒は、記録136「思ではなく想だから・・・」記録138「最後は悲しい気持ちで終わる」というように、理屈や「点」で読んでいます。ところが、音読を入れた後のグループになると記録150「告白してフラれてしょぼん」152「すぐ終わってほしくなくて回れよ回れ、もっと回ってほしい」という、「面」をイメージした言葉に変わっています。さらにはグループになると記録164「私だったら（てっぺんで）景色みたい」167「高いところじゃないと魅力がないじゃん」と、自分に引き寄せて読み、全体でも169「好きな人といたいから止まらないで」につながっています。音読を繰り返すことで歌全体（響きも含めて）から想像し、歌が自分の中に入ってきたのでしょうか。文学の授業は、言葉で説明せず、音読で始まり音読で終わるとよいとよく言われますが、国語の授業にとって音読の力は偉大だということを、改めて実感できました。

最後に振り返りを書いたようです。中学生になると自分の中に入ってきたことを全体場で話すことはなかなかしなくなります。だからこそ、最後にもう一回音読し、感じたことを書けば、そこにその子の読みが表れるのだと思います。「観覧車よ、ずっと回っていておくれ。あの子と一緒にずっといたいからって思っているんだろうなあ。」「片思いは辛いよなあ。わかるなあ。」「一日（ひとひ）一生（ひとよ）ってなんかロマンチックだよなあ。」「みんなは恋の歌って言っているけど、私はやっぱり親子のこと。だって、片思いを一生なんて重すぎるもん。親の愛情なら一生続くけどさ」・・・なんていう振り返りが出てきたら最高ですね。授業がしてみたくまりました。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、学び合いを成立させるためには、学校全体で取り組むことが絶対条件です。

テープ起こし（文字お越し）、きっと若い先生にはなじみのない言葉だと思います。時間も労力も必要で、ローテクではあるけれど、その効果は高い。授業を終えて2年近く経過してもなお、授業者に新たな気づきをもたらしました。授業動画からも生徒同士、生徒と教師の人間関係の良さが伝わったのですが、改めて文字になったものを見ると、生徒や教師の発言で相手を否定するものがないことに気がつきました。授業作りを通して、学級、学年、学校作りができていたことが分かりました。

グループ活動に否定的な学生が多いというデータを見て、改めてグループ学習の意義や学び合いの原点について考える機会となりました。目の前にある問題に取り組みたい、解決したいという欲求に駆られていても、仲間から「ここが分からないから教えて」と頼られたら、自分の欲求を抑えて仲間に寄り添える。そんな関係作りが大切だと思います。人には得

意不得意があるわけで、だからこそすべての教科で、学校をあげて取り組むことに意味があると思います。困った時はお互い様という良い言葉が日本にはあります。それを学びで実践していこうとしている教師こそが、困ったときはお互い様を実践できるようになりたい。

様々な制約がある中、自分の思い通りにできる場所が授業だと思います。だから、知らないうちに、授業を公開することにためらうようになっているのかと。授業公開＝自分の聖域に踏み込まれる。みたいな感覚になってしまうのかなと思います。年齢（経験）を重ねれば重ねるほどその想いは強くなっていくのかもしれませんが。そこにメスを入れ、意識改革を行うことが本当の意味で同僚性を築きあげるには必要なのかと思いました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、グループと全体の使い分けです。

グループ活動時に、疑問に思ったことをたくさん出せていた。授業者の狙いが当たっており、効果的であったと思った。人の意見を大切に作る環境づくりは一朝一夕では生まれないので、日々の取り組みが実を結んでいると思った。

国語の詩の学習など多様な解釈が生まれる授業では、タイミングよく音読を行うとよいことがわかりました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、教材研究の大切さです。

林先生、本日の会でも、たくさんの大切なことを改めて学びました。教材研究の大切さ、音読の大切さ、頭を柔らかくすることの大切さ（君が観覧車という思いが自分だけでは浮かびませんでした）などです。

授業を見せていただいて温かい学級の雰囲気も感じることができました。林先生が常々、「岩中の先生は本当によくやっていますよ」とおっしゃっていたことを思い出しました。

本日もありがとうございました。

もっと若い人にこの会に来てほしいな一と感じました。岩中で声を出しておきます。

レベルの高い意見が多く、あらためて、自分の授業での生徒の接し方を考えさせられました。本日はありがとうございました。

本校で一度見せていただいた授業でした。時間を空けて、もう一度振り返る中で、改めて、授業の奥深さと楽しさを実感しました。

- ・自分の予想や考えとは全然違う考えが出てくる。
- ・グループ学習ではなく、一斉学習だったら、様々な考えはでない??
- ・グループにする前に、個人で考える時間を入れたらどうなるのか?
- ・「音読」の後に、生徒の意見が変わった。確かに!!
- ・人か観覧車以外にも、親子って考えることができる!

生徒の意見を「聴く」とは、やっぱり大事!ありがとうございました。

今まで見たグループ学習の中でも教材の解釈が非常に広いもので、生徒がどのように活動していくか、様子を見ながら進めていくのが難しい授業でした。結果論にもなりますが4コマ漫画にすることに時間を使うより、グループでの議論にもっと時間をかけたかった流れになりました。4コマ漫画の基本の起承転結（従う必要は必ずしもありませんが）にあてはめにくい歌ではなかったかと思えます。

山田先生がおっしゃったように、1枚では難しい面はあるので、枚数を限定しないで情景を絵に表すということでもよかったのかも知れません。自分は絵が得意ではないので、絵を描

くことから入ることは気が重いです。(自分の絵を見せることがいやな生徒はいなかったでしょう。) クローズアップされていたのは3人グループで、4人グループより活動が活発に行われていたように思いましたが、メンバー構成しだいの面もあるのでしょうか。自分はグループ活動をさせた経験がほぼないので、わかりません。

久しぶりに林先生の教育への想いを聴かせていただき、昨年校長として、こうした想いで「学校づくり」をされていたのだなど実感すると共に、自分は、それを共有し、サポートしていたのかと思うとはなはだ疑わしい気がします。

岩崎中学校は今年、本当に生徒たちは子供らしく可愛らしい学校になっています。研究を通して、林先生がつくられた学校は、くしくも、ご退職された後、その姿をさらに顕わにしていると感じます。

前年度に教室で拝見した授業を改めて見ることで、その時わからなかったことが、ようやく分かりました。詩についてあらためて考えることができ、面白かったです。

グループのあり方、生徒の言葉のつなげ方、それをデザインしていく力など自分には足りないところばかりなので、来週からの授業をさらに考えて行っていきたいと思いました。

たくさんありがたい、ためになるお話をありがとうございました。

林先生が我々に伝えたいことが明確に伝わる素晴らしいセミナーでした。ビデオの授業も学ぶべきポイントが多々あり、授業を観ることやそれをもとに語りあうことの楽しさを改めて実感できたと思います。自分がリカレント教育にふみ入れるか否かは、簡単に言えませんが残り少なくなった今の学校現場において教職員とともにリスクリングの場を充実させていくことには尽力したいと思っています。

これからも当セミナーには大きな期待をもって参加させていただきますので何卒よろしくをお願いします。

林先生、山田先生本当におつかれ様でした。そしてありがとうございました。

1時間、短歌を読み味わう授業を見せていただきました。前半は生徒の歌へのイメージをつくり、後半に音読を通して歌の解釈やイメージができあがっていく姿はとても興味深かったです。

こうした授業を通して、子どもたちが短歌を読み味わえるように成長すると、とても教師としてうれしいことだと思いました。

教師の授業がかわり、子どもが楽しければ、教師もやりがいが出てくると思っています。そのために、互いの授業を見合っ、学び合える学校・教師になれるようにしていきたいと感じました。ありがとうございました

面白い授業ビデオでした。短歌のイメージがだんだんと像を結んでくるプロセスが魅力的でした。こんなにおもしろい展開なのに、観覧車は一周で降りなければいけないという指摘が、生徒の中から出てこなかったことが残念です。一周で一度は降りなければならぬとしたら、「まわれまわれ」の意味合いが変わり、読み、解釈が深まったと思います。

そうしたら、この子たちの学びはどうなったかと想像してしまいます。

教師が話過ぎずに、あくまでも一つの「方向性」のみ示し、グループ学習を通して生徒に授業を任せることも大切。

グループ学習では、お互いのことを否定しないような環境づくりが大切。

適切な環境づくりも、「授業デザイン」の1つであり、その場の空気をよく読んで、実施することが欠かせない。

答えを示すことが、よい授業とは限らない。など学びました。

授業づくりは学校づくり、学校づくりは市民づくり、どういう市民になってほしいかを願ひ、教科の力を借りて育む必要性があると改めて思いました。

授業からは教材研究、児童理解、音読の価値、グループ交流の価値について、振りかえり吟味する時間になりました。

改めて、授業をデザインしていく大切さを実感しました。

自分は協力学習であったと反省しました。個の学びを確立させるための手立てをもっとしっかり考えていきたいと思いました。

しっかり学んでいきたいと思いました。今後ともよろしくお願ひします。

改めて、教師って奥が深い職業であると思いました。本当にありがとうございました。

山田先生の国語の授業を見せていただき、学んだことは教師の出のタイミングです。教師は聴くことが大切であるのは周知の事実ですが、聴くだけではなく、「出」も必要であると改めて思いました。参加者が意見交流する時間で、栗本先生の「教師の授業のデザイン・やり方は人それぞれですが、切り込む前に生徒の発言をみると、生徒たちが自分たちで「人」に限定できていた」という意見にも「なるほど!」と思いました。「聴く」「出」両方とも大切であるし、子どもの学びからスタートすることがやはり重要であると学びました。

林先生のお話の中で「これからの若手教師を(やる気があり、夢をもっている教師)どう育てていくか考えているか?」と問われたら考えていないと答えざるをえません。

自分が学ばばいいと思っていました。「教師になりたい人は0ではない」という言葉も「ハッ」とさせられました。意図的に育てる文化を、自分でも考えていきたいと思いました。

多くの学びをありがとうございました。

授業のビデオや発言の逐語記録を見ることを通して、授業に浸ることのできた楽しい時間でした。そして、中学生が恋について語るという、ほのぼのとした雰囲気にも心を癒されました。

主として、少人数での話し合い活動が中心でしたので、グループ活動とは何かを考えさせられました。発言番号20の教師の発言「はい、グループ」という言葉についてです。発言番号19の教師の発言から、何をすべきかの説明から、生徒たちも、迷うことなく情報を交換しながら、絵として表すことができました。一方、私は「はい、グループ」という言葉から、一つのものを作り上げるのかと、思っていました。「グループ」＝「グループ活動」というわけではありませんが、そちらにイメージがいつてしまいます。ここでは、「4人で机をつけて、お互いに相談しながら書いてください」という指示の方が良いのではないかと思います。グループ活動という言葉に対するイメージが、教室や世の中に広がっています。あえて、グループという言葉を使わずに、学習を進めるようにすると良いのではないかと思います。

児童・生徒が、グループ活動を通してどのように成長していくかについての研究が十分ではないことに原因があると思います。そこで、考えを一つにまとめる手段として考える人々が多いように思います。考えを一つにまとめるだけではなく、様々な人と意見を交流するこ

とにより、一人の個人が成長していくことができるのです。そういった考え方は、まだまだ一般的ではありません。

グループ学習を通して、個人がどのように成長するかについて、明らかにされることが望まれます。学習とはどこまでいっても、個人の成長であります。グループや教室の成長に代表されてはいけないと思います。グループや教室の成長が見られたら、そこにいる個人が、成長したか、または、成長しなかったかについて、目を向けることが大事だと思います

早く現場にもどって、子どもたちの思いや考えに触れていきたいと改めて思いました。

私は美術専門ですが、1つの作品を子どもがどう見ていくかを読みとっていくことに、すごく興味があります。

今回の詩の授業も、「作品をどう解釈するか」という点でおもしろかったです。

視覚芸術の美術では、様々な解釈が作品から可能ではありますが、多くの人が「そうだな」と納得する解釈はあります。決して正解ではないが、納得できる見方・考え方が共有できるのが教室かなと思います。

そう考えた、感じた理由や根拠を表現されたものに求めていけたらと思います。(詩の場合は文字、美術の場合は色と形)